

登録10年の取り組み報告⑦

綾町生物多様性地域戦略
いのち豊かな綾づくりプラン

ユネスコエコパークに登録された2012年当時、自治体主導で登録された地域が国内になく、綾町には手本にする事例がありませんでした。綾町には、ユネスコエコパークとして生態系保全とまちづくりを並行して進めていくための指針になる計画がなかったため、当面のガイドラインの作成が急がれました。

そこで登録後、町はてるはの森の会、日本自然保護協会と3者で綾生物多様性協議会を設立。3年かけて自然環境に関する基本的な情報収集からガイドライン策定までを行いました。

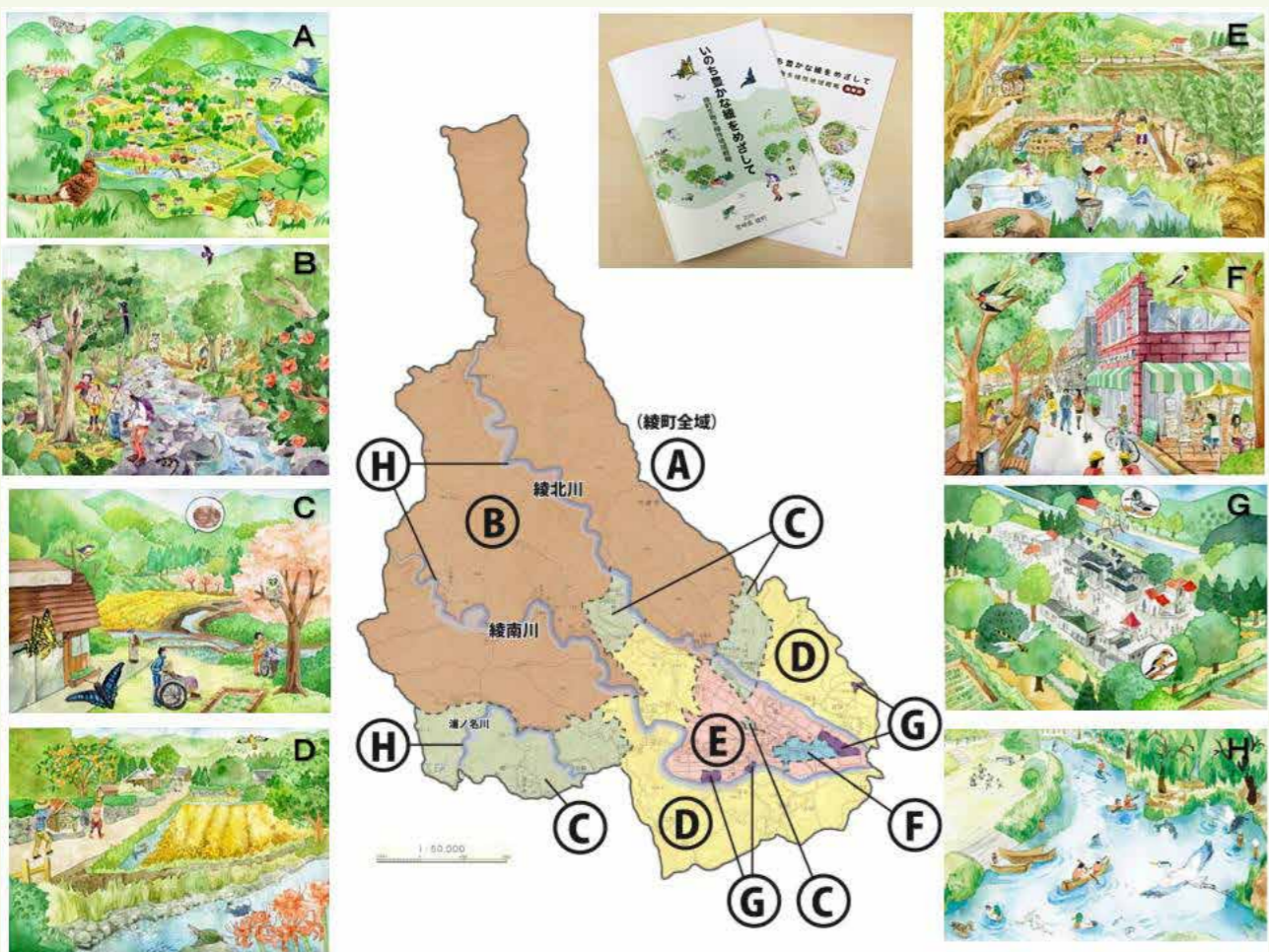
最初の2年間は、各分野の専門家の協力を得ながら綾ユネスコエコパークエリア内の動植物の生育・生息基礎調査を行いました。また、町民がどの地域に「特に自然が豊かだ」と感じているのかを調べるため、「人と自然のふれあい重要地域調査アンケート」も実施しました。

それらの調査で得られた情報をもとに、2014年から「綾町生物多様性地域戦略」の策定に取り掛かりました。これは、綾町の生物多様性やこれまでの数多くの取り組みをまとめ、今後の地域づくりに活かすための計画で、「いのち豊かな綾づくりプラン」



という親しみやすい名称を掲げています。自然環境や土地利用に合わせて町をいくつかの地域に区分し、イメージイラストを添えて各地域の目指す姿や行動目標を提示しており、2015年3月に完成しました。

本計画の基本概念は綾町の総合長期計画や景観整備計画などに組み込まれており、ユネスコエコパークのまちとして、将来も人と自然が持続的に共生できるまちづくりのガイドラインとなっています。



生物多様性地域戦略のエリア図とイメージイラスト

綾ユネスコエコパーク推進室・綾ユネスコエコパークセンター
☎77-3482 URL <https://ayabrcenter.jp> ※エコパークセンターは毎週日・月曜日および祝日休館
感染症の影響による休館等の情報はホームページで随時更新します

column

アユ

綾町の河川に生息するアユは、かつては島津藩に献上されるほど珍重されており、黄金色に輝く大きなアユを「綾太郎」と呼んでいました。照葉樹林が生み出す豊かな水は、アユをはじめとするたくさんの生きものを育ててきました。綾北川・綾南川のダム建設の影響で水量・水質が変わり、アユの生息数も年々減っていると言われています。河口付近で生まれるアユは、川を遡上し上流で成長した後、秋から冬にかけて川を下り、海で産卵を終えると短い生涯を閉じます。アユは食料としてはもちろん、水を通して森や海など自然環境からの恵みと私たち人間の暮らしをつないでくれる最も身近な存在なのです。



小さな訪問者

綾町内のいくつかの花壇では、多年草の植栽が進んでいます。錦原と尾堂の花壇には、それぞれの環境にあわせ地元で自生する植物を含む多様な種類の多年草が植えられており、1年を通してさまざまな草花が咲き誇っています。

花壇を訪れるのは人だけではなく、季節ごとにたくさんの花が咲くため、数多くの昆虫も訪れています。9月の尾堂花壇には、ヒヨドリバナやオミナエシなどの花に、ハナムグリやミツバチ、タテハチヨウの仲間などがたくさん訪れていることが確認できました。昆虫にとっても魅力いっぱいのお休みの場所になっているのです。



「ムラの肖像」はお休みします